

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (23) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

Trump 大統領は America First 以前に Trump First を感じさせるが、本連載では America First, Trump First ならぬ Basic First で彼が連日 Twitter 上に投稿している言説のいくつかを素材にその心の軌跡をたどるとともに、Basic の統語法の知識と語彙力しか基本的にはないと想定もし語釈と語の解体を試みている。別な言い方をすれば、伝家の宝刀 Basic の力があれば基本的にはすべて理解できるはずだということである。

英語の学び方で Learning English from a Mouse. という英文広告文に出くわしました。「ネズミから英語を学ぶ」というのであるが、Basic 語で言えば Learning English on the Net. とか Learning English Online. というので、コンピュータのマウス(mouse)を用い「インターネットで英語を学ぶ」ということになる。スマホならマウスではなく直接に指(fingers)を用いるので Online English Learning with Fingers. などともなる。今日われわれは誰もが目や耳とは別に「指」の触覚を介し物事を考えている。Trump 大統領の tweets などを含めニュースをパソコンのマウスやスマホを用いオンラインで刻々と追い、全世界と自分を英語で結びつける(筆者の場合は主としてゲルマン系英語とラテン系スペイン語のバイリンガルで考えてもいるが)のも、身体の部位としては指を用いていることになる。「指で覚える英語」ということになる。

なお、mouse (ネズミ) は Basic 語 **muscle** (筋肉) と同系である。その盛り上がった形態から納得できよう。一方、Basic 語 **rat** は他の Basic 語 **rub** や un-Basic 語 **razor** (かみそり)、**rash** (発疹) などと同系で、「引っかくこと」が原義の語である〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(135)参照〕。また、Basic 語 **finger** は数の **five** などとも同系〔他の多くの同系語の例は同上拙著、第二部、例(46)参照〕。

ところで目下、コロナウイルス(coronavirus / COVID-19)の蔓延で quarantine (伝染病などの隔離・検疫所・検疫停船期間・隔離する・検疫する) という英語を頻繁に見聞きするが、空港などでもよく用いられるこの語の原義は一般にどのような語感で把握されるか? である。数学で「2次方程式」のことを quadratic equation というが、実はこれとも関わっている。quadratic は「正四角形の、正方形の」の意味であり「4」の意味をもっている。もっと身近な語としては quarter (4分の1) が同系語である。quarantine とは「四角で囲まれた空間」が原義である。

quarantine を Basic 語によりどこを求めれば実は **square** (四角) と同系である。さらに実は初頭音が [f] で Basic 語の範疇である数字の four, fourteen, forty (ラテン系ロマンス言語スペイン語では「4」「14」「40」はそれぞれ cuatro, catorce, cuarenta) など

とも同系である。quarantine では伝染病の病原体が持ち込まれないよう港での船舶や空港での飛行機を隔離し（元はその期間は 40 日間であったようではあるが）、消毒などがされるわけである。morphophonemics（形態音素論：MP 論）的な語の分析には常に発見があるが、語形と音形の[kwɔər]から quarantine は quarter（東西南北の四方位・4分の1・場所・特定な地区）などと同系ではないかとまずは直感できればよい。

就任以来の Trump 大統領の tweets は公文書でありすべてネット上に残っていて、いつでも閲覧でき学べるが膨大な数である。連日、精力的に執念をもって書き「新型コロナウイルスとの戦争」に勝つ(We will prevail.)とたびたび彼は言っている。国家元首のうち日本の安倍首相などは断続的に書くのみで、それが普通ではある。安倍首相の tweets は日英語の論理の違いもあるが、どこか不透明な印象しか残らないことが多い。しかし Trump 大統領のそれは、今日の社会・国際情勢を分かりやすくしていることは事実で、良かれ悪しかれ彼の心に描くアメリカ(U.S.A.)像もよく見えてくる。

現時点（5月上旬）で Trump 大統領は新型コロナウイルス対策とは別に、国内の経済活動にも目を向けている。半年後の 11 月 3 日（火）の大統領選は共和党現職の Trump 大統領と民主党の Biden 前副大統領の戦いとなることはすでに 4 月上旬から中旬にかけて事実上確定していたが、時間をさかのぼり今回は(1)でまずは昨年 2019 年の 1 月元日の彼の短い tweet を見てみる。(2)はメキシコとの国境の壁建設を巡る予算問題で野党民主党との折り合いがつかず、彼がついに連邦政府機関の一部閉鎖に踏み切ったことに関わる tweet である（この出来事はもうそろそろ記憶から薄れてもいないだろうか？）。

(1) Washington Examiner — “MAGA list : 205 ‘historic results’ help Trump make case for 2020 re-election.” True! (January 1, 2019)

▲昨年元日にネット上で見た tweet であるが、Washington, D.C.に本部を置く Washington Examiner 社（Website および Weekly 誌）によると、MAGA 政策一覧として、Trump 大統領はこれまで 205 件の「歴史的成果」を残したとし、これは 2020 年の再選に向けて確かなものになりうると評したのに対し、彼自身が「その通りだ！」と言っていた内容である。次は KAG 政策となる。

まずは下線とした語 help に関して基本的な点を確認しておく、この語は後ろに「結果的に～の方へ向けること」を明示化する to を従えた help Trump to make ... と、この場合のような to を従えない例が両用されるが、なぜそうなるかに関して明確にしておく必要がある。こういう場合の help の意味は「助けて～させる」の意味であり、help が使役動詞のように感じられ to の意識が薄れもするわけである。

太線語 case とともに、ここでは下線部の英語的な言い方の make case の意味を感じ取りたい。case は「事例、場合」の意味ではプラス α Basic 語であるが、PIE etymon の

音素形は/KAD/とされ「落ちること、降りかかること」が原義で、実は Basic 語 **chance** とも同系である。さらに同系のプラス α Basic 語 *accident* や un-Basic 語 *cascade* (滝)、*coincidence* (偶然の一致) 中の子音[d]からも印欧祖語の語根中の音素/D/を垣間見ることができるが、他に *casual*, *occasion* など同系語として一括できる〔その他の例は同上拙著、第二部、例(73)参照〕。

さらに *case* は「箱、ケース」の意味ではプラス α Basic 語ではなく un-Basic 語となるが、上と同じ PIE etymon /KAD/からである。un-Basic 語 *cash* (現金) も箱の中に入れる (入れ落とす) ものであり同系である。*case*, *cash* は共に、in case (～の場合に)、in cash (現金で) のように「中」を意味する空間詞 *in* と共起することも納得できよう。

また、実は本連載でたびたび引き合いに出してきた「(獲物の頭を) つかみ取ること」を意味する PIE etymon の音素形/KAP/とも根元ではつながっていて、Basic 語 **keep**, **have**, **chief**、プラス α Basic 語 *cattle*, *capacity*, *purchase*、さらには un-Basic 語 *cap* (帽子)、*capture* (捕獲)、*captive* (捕虜)、*catch* (つかむ) 等々、きわめて多くの語が同系としてやはり一括される〔他の多くの同系語の例は同上拙著、第二部、例(2)参照〕。

ここでまたも三段論法的な謎掛けなら、「*case* と掛けて何と解く?」、「*chance* と解く」、「その心は?」→「どちらも<降りかかること>が原義である」となる。

ここまで言えば、上文での *make case* が「つかみ取る」の意味であることは見えてこよう。*make case for 2020 re-election* は「2020年に再選される」である。英語は一旦分かればしめたもの、あとは連続する2語ずつの共起性(co-occurrence)・語結合を慣用的なものとして納得しつつ、「分かりながら読む、読みながら分かる」を黙読の場合でも心の中でリズムカルに何度も繰り返すだけである。慣用性の体系を発見していくということであるが、このあたりは本連載(12)で若干扱った **structural linguistics**(構造主義言語学)の見方とも結びつく〔**structuralism / post-structuralism** (構造主義/ポスト構造主義)に関しては、さらにはかつての日本ベーシック・イングリッシュ学会 (名称は当時) 発行の研究紀要 (2006)[No.14]で記号論(semiotics)との絡みから説いた拙稿、また本年度の *Year Book* (2020)[No.72] (6月発行予定)での拙稿など参照〕。

最後に前回と同じように、上の *tweet* を3つの深層意味素(deep sememes)から見てみると、**i) ABOUT** : Washington Examiner 社による Trump 大統領の MAGA 政策調査、**ii) BECAUSE** : すでに 205 件の歴史的な成果・功績を残したので、**iii) PLEASE** : 2020 年には再選と考えられてよい、のようになる。

(2) The Democrats could solve the Shutdown problem in a very short period of time. All they have to do is approve REAL Border Security (including a Wall), something which everyone, other than drug dealers, human traffickers and criminals, wants very badly! This would be so easy to do! (January 6, 2019)

▲最初から ABOUT, BECAUSE, PLEASE で意味内容を整理してしまえば、**i) ABOUT**: 政府機関の閉鎖(government shutdown)、**ii) BECAUSE**: 国境の壁の建設を含めた本当の安全性は、麻薬密売人や人身売買など犯罪人は別に、誰もが強く望んでいることで、政府閉鎖は短期間で取りやめとすることはできるので、**iii) PLEASE**: メキシコとの国境の壁建設を(民主党諸氏は)承認して欲しい、となる。この政府機関の一部閉鎖がクリスマスから新年(2018.12 - 2019.01)にかけての2週間ほど経った時点だけでも、約80万人の政府職員が自宅待機や無給状態の勤務ともなった。

下線語 shutdown (< shut down)に関連し、shut up (口を閉じる、黙る)と区別しておきたい。なお、The shutters are up. (シャッターは閉まっている)と The shutters are down. (シャッターは開いている)も区別が必要である。

下線部 do と approve は上の(1)での help の例とも若干関わると言えようが、命令的な Do approve it! が背景にあり、approve の前には to のないほうが自然である。

太線語 period は{peri (= round) + od (= way)}で「一回りすること」で、method {met (= after) + hod (= way)}, exodus (民族脱出・[E~] 旧約聖書「出エジプト記」)、odometer / hodometer (走行距離計)など多くの英語が同系語である。今日的な電気のLEDは light-emitting diode (発光ダイオード)の略である〔同上拙著、第二部、例(131)解説参照〕。

太線の Basic 語 **wall** は PIE etymon の/WEL/からとされ「回り巡ること」が原義で、同系語に他の Basic 語 **walk, wheel**、また[w]がラテン系で[v]となった **development**、さらにプラス α Basic 語の *volume, valley*、un-Basic の *waltz* (ワルツ)、*well* (井戸)、*involve* (巻き込む)、*evolution* (進化)などがある〔同上拙著、第二部、例(69)参照〕。

太線語 traffickers での traffic の tra(f)-は across の意味の接頭辞で、tran-, trans-と同じである。traffic は{tra(f) (= across) + fic (= to make)}と要素分解でき make ... across (横切らせる)の意味で、根元では Basic 語 **trade** などともつながっている〔他の例は本連載(3)の②、および同上拙著、第二部、例(89)参照〕。

この文も何度も読み込めば、次の試問での連続する2語ずつの結合(語整序法)は自動的に見抜ける。1語が他のどの1語と慣用的に次々と共起するか(co-occur)ということである。

.....
試問 — 語整序 —

<正解は上の(2)の tweet 参照>

The Democrats could solve [a, in, of, period, problem, short, Shutdown, the, very] time. All they have [approve, Border, do, is, REAL, Security, to] (including a Wall).